

弘大出版会賞

佐野さんの単著受賞

病原体・ウィロイド解説

弘前

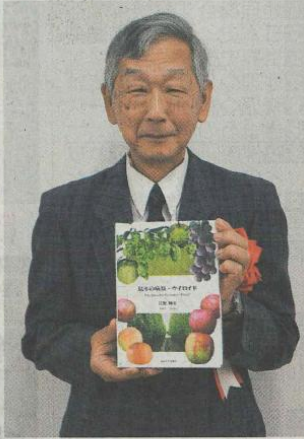
弘前大学出版会(編集長・柏木明子農学生命科学部教授)は、第16回弘前大学出版会賞に、同大理事(特命担当)の佐野輝男さん(70)が著した「最小の病原体・ウィロイド」を選んだ。6月30日に同大附属図書館で表彰式を開き、佐野さんに賞状を贈った。

植物や果樹に壊滅的な被害をもたらす病原体・ウィロイド。その研究の第一人者である佐野さんは、1992年に弘前大に着任し、国内の作物と果樹のウィロイド病の全容解明などの研究に取り組んできた。2020年には、40年にわたる研究成果が認められ、日本の学術賞として最も権威のある「日本学士院賞」を受賞。

佐野さんにとって初の単著「最小の病原体」は、1971年の病原体発見から2024年時点での最新知見まで、800もの文献や自身の研究成果をまとめた一冊。ウィロイドについて体系的に分かりやすく解説した書籍の出版は国内初。表彰式では福田眞作学長が「佐野先生がライフワークとするウィロイドの研究は弘前大にとって受け継がれるべきもの。弘大出版会で書籍化したことをうれしく思う」とあいさつ。柏木編集長は「研究者にとって貴重な参考文献であり、学部生向けの教科書としても活用できるよう工夫が凝らされている。農産物に大きな被害を与える可能性のあるウィロイドについての知見を、一般にも広く紹介する本書は大変価値のあるもの」と評した。

賞状を受け取った佐野さんは「弘大出版会の熱意で研究成果をまとめることができた。表紙デザインなど細部にわたる丁寧な仕上がりに感謝している。幅広く活用してもらえたら」とほほえみ、ウィロイド研究の発展のため「若手研究者のサポートを続けていく」と力を込めた。

今回は23年1月から24年12月までに刊行された5作品が審査対象となった。(稲葉智絵)



弘前大学出版会賞の受賞を喜ぶ佐野さん

※この記事は陸奥新報社の提供です。

[問合せ先]弘前大学出版会

hupress@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。